

課題別研究プロジェクト

英語教育の質的向上を目指した実践研究法のデザイン

司会者： 田中武夫(山梨大学)

提案者： 藤田卓郎(福井工業高等専門学校)、河合創(福井市立大東中学校)、宮崎直哉(掛川市立北中学校)、永倉由里(常葉大学短期大学部)、酒井英樹(信州大学)、清水公男(文京学院大)、高木亜希子(青山学院大学)、滝沢雄一(金沢大学)、山岸律子(白山市立鳥越中学校)、吉田 悠一(松阪市立飯高中学校)

様々な要因が複雑に絡む教育実践の中で、教師が抱える問題について深く理解したり、実践上の課題を解決する糸口を模索したりするといった教師による実践研究は、英語教育における実践の質的向上を目指す上で極めて重要である。しかし、これまでの英語教育に関する研究は、実証主義に基づく厳密な研究手法が求められることが多く、教師が研究に取り組む際のハードルを高めてきた。その一方で、教育実践を研究するための手法が十分に整備されていないために、同僚あるいは研究者との間で実践に関する議論を深めることができず、実践知を効率よく構築できていないことも指摘できる。本プロジェクトでは、これまでの実践研究の課題やこれまで提案されてきた研究手法を整理し、実践研究の研究法の可能性を探り、英語教育におけるよりよい実践研究の手法を提案することを目的とする。

プロジェクト1年目にあたる昨年度は、1)本プロジェクトにおける「実践研究」の定義を提示し、2)実践研究に対する英語教員の意識調査(Web アンケート)の結果報告を行い、3)中部地区英語教育学会紀要論文におけるこれまでの実践研究の内容と研究方法の分析を行いその報告を行った。

プロジェクトの2年目にあたる本年度は、本プロジェクトメンバーが実際に実践研究を進める中で、英語教育における実践研究における方法論上の課題を明らかにすることを目的に研究をすすめ、三重大会においては、以下の3点について発表する。

1 本プロジェクトメンバーによる実践研究の実際 提案者： 宮崎直哉(掛川市立北中学校)、山岸律子(白山市立鳥越中学校)、吉田 悠一(松阪市立飯高中学校)、河合創(福井市立大東中学校)

本プロジェクトでは、以下のように実践者と協同研究者の4つのペアを組み、実践研究を支援する形で研究を行なっている。その実践研究の内容について紹介する。 1)河合(実践者)-藤田(協同研究者)、2)山岸(実践者)-滝沢(協同研究者)、3)宮崎(実践者)-永倉(協同研究者)、4)吉田(実践者)-清水(協同研究者)

2 実践研究における実践者の研究方法に関する課題 司会者： 高木亜希子(青山学院大学)

実際に実践研究を行う上で、どのような研究方法上の悩みや課題があるのかを具体的にするために、インタビュー形式で、実践者が具体的課題について説明を行う。

3 実践研究を行う上での方法に関する課題の整理 提案者： 藤田卓郎(福井工業高等専門学校)

上記の実践研究の研究方法に関する実際の課題をもとにしながら、英語教育の実践研究における研究方法上の課題にはどのようなタイプが存在するかを整理し、大まかな課題のタイプと今後の本プロジェクトの研究の方向性について提案する。